



◎特集

# 産学連携の拠点 「バイオメディカル・イノベーションセンター」を開設

バイオメディカル・イノベーションセンター長 教授 谷 徹



昨秋、国立大学法人としては初めてとなる、レンタルラボを備えた産学連携のための施設「バイオメディカル・イノベーションセンター」がオープンした。開設の目的や施設の概要、今後の展望について、谷 徹センター長にお話をうかがった。

## 国立大学法人では初めての開設となる 産学共同研究のための施設

バイオメディカル・イノベーションセンターは、本学で育まれた研究成果を活用して大学と産業界との共同研究等による新規事業の創出支援と、本学の教育研究活動を推進することを目的とします。医療、生命科学に関する最新の情報を蓄積するとともに、その情報の交換や研究者同士が交流する場を提供し、他大学や地元企業や学外施設、団体等との連携によって、共同研究・開発を進める事も目的とします。施設は6つの実験・研究室と2つのオフィスのほか、ラウンジとしても使用できるセミナー室が設けられています。

この施設が開設された意義は、まず滋賀医科大学が自己資金で開設に踏み切った点にあり、本学の研究、ヒューマンリソースを活用して、それを完結させるために自己責任でやっていたという意思の表れ、いわば「フラッグ」としての意義が大きいと考えています。運営についても従来の枠を出て、自立・自己責任の考えを基に、一般社会に通ずる考え方で、学内外をつなぐ「社会通念」実践モデルとします。また地域と密着した共同研究を進めるため、地元企業（学外施設）の入居を優先しながら、人材と資金を集めるための窓口としての役割を担う利点もあります。

すでにリエゾンオフィス等を開設している大学もありますが、いわゆる国立大学法人でこういった産学連携のための自前の施設設立は初めてのケースであります。

学外地域との関係では、本学の近くに、立命館大学と龍谷大学があり、立命館大学は工学系、龍谷大学は福祉と環境工学系というそれぞれ得意とする分野があります。本学の医学・生命科学のシーズや患者さんの診療・治療を行っているという医科大学にしかない特徴とを融合することで、さまざまな研究分野への広がりそれぞれの特異とする能力の相乗効果が期待できます。



ドラフトチャンバーを配置した  
生物・化学用の研究室



データ解析、プログラミング等に  
利用できるオフィス



1階エントランス横の事務室

さらに県内大学と滋賀県・大津市・草津市、さらに民間企業による構造改革特区が形成され、県の経済振興特区としてベンチャー支援などが行われてきましたが、こういった行政の優遇措置を活用することも視野に入れていきます。

### 特許取得やベンチャービジネス立ち上げも視野に学内外の提携をサポーター

これまで研究活動の成果は主として医学界や薬学界に向けて発信してきましたが、地元企業や近隣の大学研究者には、本学で行われている研究やシーズは、なかなか見えにくかったのではないかと思われる。

今後は、本学のシーズを学外に広く知ってもらうために、学内研究者の情報を整理して外に向けて発信したり、研究成果の発表の場を設けたりしながら、学内外の提携を促進していくこととなります。特にプロジェクトを獲得した研究者・研究チームのサポートを行い、必要な人材や、提携可能な企業などをあつせんするなどきめ細かなバックアップをめざしたいと考えています。

### 利便性向上に対する取り組み

センター入所者や研究者が学内のアカデミックネットワークにコンタクトしやすく、情報や機器の使用、実験の遂行が速やかに実行可能な地位や権利を確保したいと考えています。

さらに、MR医学総合研究センターや分子神経科学研究センター、共同研究センターなど本学内にある6研究センターと、バイオメディカル・イノベーションセンターに入所した研究者チームが容易に連携して共同研究・開発に当たることができるような仕組みを整備していくことも考えています。

### 今後の展開

今後さらに大学には地域振興、新産業の創出、医療福祉への

貢献など、社会の幅広い分野での役割が求められるようになり、その状況に適應する滋賀医大の知的財産であるシーズを発信し、また社会からのニーズを収集することで企業との共同研究を進め、独創的な医療関連の技術・器具・薬品・食品などの開発につなげる必要があります。この取り組みを推し進め、具体化していくために、バイオメディカル・イノベーションセンターが大きな役割を果たすこととなります。

患者さまのみならず広く地域の皆さんのニーズに適應する研究・開発に取り組み、近い将来に特許の取得やベンチャービジネスの立ち上げなどを実現することで、地域の産業と大学を活性化できるはずです。そして、自立と自己責任をキーワードに、国立大学法人の新しい自立のモデルケースにもなるような実績を残していきたいと考えています。本センターの開所はその一歩と言えます。



玄関ホール



映像設備を設置したセミナー室  
ラウンジとしても使用できる